

第72回四国地区人権教育研究大会 教育長あいさつ

〔令和7年7月10日（木）
愛媛県県民文化会館〕

第72回四国地区人権教育研究大会の開会にあたり、御挨拶申し上げます。

本日は、四国各地から多数の皆様方に御参加いただき、心より感謝申し上げます。また、御多用の中、御臨席賜りました御来賓の皆様方には、厚くお礼申し上げます。

本研究大会は、四国4県による持ち回り開催としておりますが、前回の愛媛大会は、コロナ禍のため県内参加者のみ参集する形をとりました。今回、8年ぶりに各県から人権教育に携わる皆様方をお迎えし、盛大に開催できることを大変うれしく存じますとともに、大会の開催に御尽力いただいた関係者の皆様方に、深く感謝申し上げます。

さて、コロナ禍を経て、令和5年度に愛媛県教育委員会が小学校5年生から中学校2年生を対象に行った調査では、約4割の児童生徒が、人間関係を築くことに関して不安を感じていることが分かりました。また、世界に目を向けましても、分断と対立を煽る事案が毎日のように報じられており、互いを認め合い安心して生活を送るための人権教育の重要性が、これまで以上に高まっていると実感しております。

本研究大会は、各県で取り組んでいる人権教育の実践と研究の成果を持ち寄り、互いに学び合い、深め合う貴重な機会であります。今大会のポスターには、本県の教育者であり詩人であった坂村真民氏の「本気」という詩が用いられています。お集りの皆様方には、この詩の言葉のとおり、本研究大会を通して人権教育の在り方について「本気」で考え、語り合い、そして明日からの行動へ踏み出す契機としていただきますよう、心より期待しております。

結びに、本研究大会が、四国地区における今後の人権教育の発展に大きく寄与するとともに、御参会の皆様方の御健勝・御活躍を心より祈念

し、開会挨拶とさせていただきます。